

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	3-2-2	事業名	知的障がい者等を対象としたホームヘルパー養成モデル事業				
担当	保健福祉局保健福祉部障がい福祉課 手稲区保健福祉部保健福祉課	成澤・多田 辰野	211-2936 681-2400(内線342)				
全体計画							
事業内容	「障がい者と高齢者がともに支えあうまちづくり」に向けた取組の一環として、高等養護学校の卒業生などの知的障がいのある方を対象としたホームヘルパー3級養成講座*を、NPOと連携し実施する。 *受講者は20人程度(知的障がい者及び支援者)で、1人につき延べ約100時間の講習を行う予定である。		<年度別の事業内容>				
			19年度 知的障がい者と支援者を対象としてホームヘルパー3級養成講座を実施 20～22年度 同上				
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)		平成20年度事業内容(予算)				
	知的障がいのある方等を対象としたホームヘルパー3級養成講座を、NPO法人ワーカーズコープに委託し実施した。 (1)受講者 19人(障がい者11人、支援者8人) (2)開講期間 平成19年9月1日(土)～11月23日(金) (3)会場 札幌市手稲区老人福祉センター (4)カリキュラムの内容 「北海道介護員養成研修実施要綱」に定める履修科目50時間のほか、予習・復習や演習など50時間の特別カリキュラムを盛り込んだ。 法定履修科目であるデイサービス見学実習は、区内4カ所の通所介護事業所で行った。そのほか、特別カリキュラムとして区内5カ所の特別養護老人ホームの訪問を行った。		19年度に引き続き、知的障がいのある方を対象としたホームヘルパー3級養成講座を、NPOに委託して実施する。 (1)受講者 20人程度(障がい者10人、支援者10人) (2)開講期間 平成20年9月～11月 (3)会場 札幌市手稲区老人福祉センター (4)カリキュラムの内容 平成19年度の実施内容に準じる予定である。				
達成目標の状況							
項 目		18年度末 (現 状)	19年度末 (実 績)	20年度末 (予 定)	21年度末 (予 定)	22年度末 (予 定)	22年度末 (目 標)
講座を受講した障がい者数(累計)		-	11人	21人	31人	41人	25人
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>市民との連携、市民参加 ヘルパー養成講座に一般市民が支援者として参加することにより、障がい者雇用に対する理解の促進が期待できる。</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力] 知的障がいのある方がヘルパーの資格を取得することにより、就労機会が広がり、障がい者の所得増につながる事が期待できる。 [人材協力] 知的障がいのある方と支援者がともに学ぶ機会をもつことにより、障がい者への理解を深めた人材の育成を図ることができる。 [情報協力] ヘルパー養成講座のカリキュラムの作成、講師の選定等で、NPOのネットワークを活かした運営が期待できる。 [その他の協力]</p> <p>市民・企業等が参加しやすい環境づくり 障がいのある方や支援者がヘルパー養成講座に容易に参加できるよう、受講費用をテキスト代程度に抑えている。</p>							

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード	3-2-2	事業名	知的障がい者等を対象としたホームヘルパー養成モデル事業				
評価(成果)		課題					
<p>・19年度は、障がいのある方の受講定員が10人のところ16人の受講申込みがあり、抽選の結果11人が受講し、全員がヘルパー3級の資格を取得することができた。また、障がいのある方とともに、支援者8人もヘルパー3級の資格を取得しており、障がいのある方と健常者がともに学びながら受講者全員がヘルパー資格を取得できたことは大きな成果だったといえる。</p> <p>・デイサービス見学実習や特別養護老人ホームの訪問実習などを通じて受講した障がいのある方の社会参加に向けた意欲の向上も図ることができた。</p>		<p>募集対象の拡大 19年度は高等養護学校の卒業生を中心に受講生の募集を行ったが、福祉施設に通所している障がい者も募集対象にするなど募集対象の拡大を図りたいと考えている。</p> <p>受講生の就労に向けた支援 ヘルパー3級の資格は比較的短期間の受講で取得することができるが、3級の資格では身体介護ができず家事援助にとどまるため、現実ヘルパーとして就労し報酬を得ることは難しい状況にある。そのため、受講生が資格を活かして社会参加できるように就労支援の方策も検討していく必要がある。</p>					
今後の事業の予定・方向							
<p>第2次新まちづくり計画期間中、本事業を継続実施し、事業の効果について検証する。なお、今後、次の事項についても検討していく。</p> <p>対象者数の拡大 本事業はモデル事業として現在手稲区のみで行っているが、手稲区以外に住んでいる障がいのある方からも受講希望があるなど、資格取得の潜在的なニーズはまだあると考えられる。障がいのある方にとって資格取得はキャリアアップと社会参加に向けた大きな自信につながることから、本事業の成果を踏まえて全市的な取組の可能性を検討していく。</p> <p>就労支援等の方策 知的障がいのある方が本講座を受講することにより、人とのコミュニケーションの取り方や社会で生活していくうえでのルールなどを身につけ、ヘルパーへの就業に限らず、他業種への就職など社会参加を促進する大きなきっかけになるものと考えられる。しかし、現実的にはヘルパー3級の資格だけでは障がいのある方の就労が難しいことから、2級取得などのスキルアップや就労に向けた支援の方策を検討していく必要がある。</p>							
事業費の推移							
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計	
計画	事業費	2,284	2,000	2,000	1,716	8,000	
	財源内訳	国・道支出金	0	0	0	0	0
		市債	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
		一般財源	2,284	2,000	2,000	1,716	8,000
予算	事業費	2,284	2,000	-	-	4,284	
	財源内訳	国・道支出金	0	0			0
		市債	0	0			0
		その他	0	0			0
		一般財源	2,284	2,000			4,284
実績	事業費	1,947	-	-	-	1,947	
	財源内訳	国・道支出金	0				0
		市債	0				0
		その他	0				0
		一般財源	1,947				1,947
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)				49.3%	
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)							
<p>(全体) 現段階で差異はない。 [19年度] [20年度]</p>							